

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	以下の3点から評価する:①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準:上記参加態度を全て満たすもの。			10	
レポート／作品	Sのレポートの評価:①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。			30	
発表	Sのレポート発表評価:①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。			20	
小テスト	成績評価:S(傑出した内容)=90－100、A(平均を上回る内容)=80－89、B(平均的内容)=70－79、C(平均を下回る内容)=60－69、D(左記以外の内容)=0－59			20	
試験	成績評価:S(傑出した内容)=90－100、A(平均を上回る内容)=80－89、B(平均的内容)=70－79、C(平均を下回る内容)=60－69、D(左記以外の内容)=0－59			20	
その他					
合 計				100	

回数		授業計画
1	授業内容	授業ガイダンス:本授業の進め方と学び方/レポート課題説明と出題の解説、シラバスを読んでおき、各授業に関する質問事項等を考えておくこと。
	事前・事後学習	事前学習(上記質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを整理しながら、自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)。
2	授業内容	知財の意味を考える①(創造戦略/権利化戦略/活用戦略/管理戦略/インフラ戦略)/パラダイムシフトとは。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
3	授業内容	知財の意味を考える②(知財活用事例:ヘルシア緑茶 versus コカ・コーラ、Apple とサムスン電子のスマホ訴訟合戦)。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
4	授業内容	知財の歴史、知的財産マネジメントの標準化;標準とパテントプール(医薬品の研究開発と特許の種類)(グループワークによるプレゼンとディスカッション①)。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
5	授業内容	技術開発の保護:社内規定の整備→職務発明規定と営業秘密管理規定/レポート課題説明と出題。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
6	授業内容	工業デザイン・営業標識の保護:商標権侵害←警告書への対応。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
7	授業内容	創作的な表現の保護:著作権と特許権の違い。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
8	授業内容	知財の国際的保護:属地主義を原則に条約により国際調和をはかる、製品ライフサイクルとその各段階における知的財産マネジメント(グループワークによるプレゼンとディスカッション②)。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
9	授業内容	知財戦略:デファクトスタンダード(de facto standard);市場における競争や広く採用された「結果として事実上標準化した基準」←最強の参入障壁/レポート課題説明と出題。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
10	授業内容	知財の情報開示:知財管理の一般的業務構成、インテルのマイクロプロセッサのマーケティングと知的財産マネジメント。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
11	授業内容	知財の証券化:知財信託 管理型・資金調達型、アップルの収益メカニズムとアップルが守るコア領域:アップルの知的財産マネジメント。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
12	授業内容	知財人材の育成:知財スキル標準→世界初、知的財産パーソン育成のための“指標”、(グループワークによるプレゼンとディスカッション③)。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
13	授業内容	知財立国とグローバル戦略、知的財産ミックスによるブランド戦略。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
14	授業内容	知財スキルと標準化①:グローバル戦略マネジメント。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
15	授業内容	知財スキルと標準化②:グローバル戦略のための人材マネジメント。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。